島根県隠岐郡知夫村

仁夫里における祝言のあいさつ

上野智子

○はじめに

1．対象地の地理的言語的環境：日本海に浮かぶ隠岐諸島の島前に属する。（以下は、神部宏泰著『隠岐方言の研究』から引用）「島前」は、西の島の西の島町、中の島の海士町、知夫里島の知夫村の、三か町村に分かれる。（中略）知夫村は、「島前」の中でも、辺境地域とみなされる。（中略）ことばのうえでも、「島前」の他地域に比して、古態を見せることが多い。

2．対象地の社会的経済的環境：島内７集落のうちで、最も早く開けた集落であるためか、村役場所在地よりも戸数が多く、集落としてもまとまりがよい。

3．牧畑主体の畜産業が、昔からさかんである。農業も行われるが、漁業はあまりふるわない。

4．交通：本土からは一日にフェリー２便、高速船１便が寄港するほか、島前町村組合の就航船が２往復している。島内は車の便が悪く、車両数も少ない。

5．人口：１０３戸で人口は２２２人（平成２年８月末現在）である。明治末から現在に至るまで、大きな増減は見られない。

6．調査年月日：１９９０年９月３日午前１０時３０分～１２時

7．方言話者：中本オマキ　　明治３８年７月２８日生（８５歳）
その他６０歳台の男性２名に予備調査を行った。

8．調査者、調査場所：上野智子、話者宅の居間

9．調査方法：質問法によった（文例はすべて中本氏の教示によった）。

Ⅰ．結納授受のあいさつ

1．仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

○ユーベワ　アノー　ヨメサンオ　ヌスンデ　キマシタケン　ケサワ　モライニ　イキテ　クダサイ。昨夜は、あのう、嫁さんを盗んで来ましたから、今朝は（新郎の家に）貰いに行って下さい。〈普〉〈古〉

盗まれてきた時には、

○ツマラヌ　モノ　キタダエド　ヨロシク　タノミマス　ジャー。つまらぬ者が来たけれど、よろしく頼みますよ。〈普〉

両親は、それに応えて、

○ヤレ　ヨーコソ　コンナ　トコエ　キテゴイテテ。やれ、ようこそ、こんな所へ来て下さって。〈普〉

2．その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ココノ　コワ　ネー。アノー　ミジュクナイ　コダケド　マー　ヨロシク　ナー　オネガイシマス　ゼ。ミジュクナ　コデ　ツマラヌ　コダダエド　ネー。マー　コレカラ　サキ　ヨロシュータノミマス　エ。ここの子はねえ。あのう、未熟な子だけれど、まあ、よろしくお願いしますよ。未熟な子でつまらぬ子だけれどねえ。まあ、これから先、よろしく頼みますよ。〈普〉

Ⅱ．嫁をもらう（→もらった）家の人へのお祝いのあいさつ

1．嫁をもらうことが決まった（→もらった）家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

○テマオ　モラッタソーデス　ネー。アー　ヨカッタデス　ネー。手間をもらったそうですねえ。ああ、よかったですねえ。〈普〉

2．嫁をもらう（→もらった）家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○アー　イー　ヨメサンオ　モライマシタ　ワナ。イー　テマオモラッテ　ヨロコンジョオリマス。ああ、いい嫁さんをもらいましたよ。いい手間をもらって喜んでおります。〈普〉〈古〉

Ⅲ．嫁に出すことが決まった（→ 出した）家の人へのお祝いのあいさつ

1．嫁に出すことの決まった（→ 出した）家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○ダレソレサンガ　ヨメサンニ　イキタテテ　ヤレ　ヨカッタデス

ノー（ヨカッタ　ノー）。誰それさんが嫁さんに行ったそうで、やれ、よかったですねえ（よかったねえ）。〈普〉

2．嫁に出す（→ 出した）家の人は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ソイデモ　アンナ　コデモ　モライテガ　アッテ　ヨカッタ　ワナ。それでも、あんな子でももらい手があって、よかったわよ。

○モチオ　フトハンボー　サケイッショーニ　カエラレタ　ワイ。（嫁さんを）餅を一ハンボー（手桶）と酒一升に替えられたよ。〈たわむれ〉

Ⅳ．結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たち（親戚以外）は、どのようなあいさつをしますか。

1．新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ヤレ　ココニ　イー　コトガ　アリマシテ　ネー。ヨバレテ　キマシタ。やれ、ここにいいことがありましてねえ。よばれて来ました。〈普〉

1－2．父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ハヤ　ゴザイ　ゴザイ。ようこそ、どうぞ、どうぞ。〈普〉

2．新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

○ヤレ　ムスメサンガ　ヨメサンニ　イカシタテテ　ノー。ヨバレテ　キマシタ。やれ、娘さんが嫁さんに行かれたそうですねえ。（お祝いに）招ばれて来ました。〈普〉

2－2．父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ダレソレモ　マー　モライテガ　アッテ　マー　ヨロコンジョリマス。誰それも、まあ、もらい手があって喜んでおります。〈普〉

Ⅴ．なし

Ⅵ．嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1．10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

○アトゴラー　オイワイデ　オシェワデ　ゴザイマシタ。先頃はお

祝いで、お世話でございました。〈ていねい〉

2．父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ナニゴトモ　ナクテ　スイマシェンデシタ。何事も（おかまいも）なくて、すみませんでした。〈ていねい〉

Ⅶ．結婚式後の仲人へのあいさつ

いわゆる仲人はいないので、

○ナンノ　レイモ　アリャ　セン。ヨンデ　クワスルダケダ　ワナ。ムカシャ　アリャ　セザッタ。（近所の人には）何の礼もありはしない。招んで食べさせるだけだわね。（仲人などは）昔はありはしなかった。

Ⅷ．嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1．嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

里帰りの習慣もなく、

○ミッカノヒガ　サトガエリダー。（盗まれて）三日目の日（つまりミッカノイワイ）が、里帰りだ。

［注］

祝言のあいさつとしてはいたって簡素・純朴である。その要因として、仲人を立てる習慣がなく、略奪婚に通う風習のあることが挙げられる。つまり、婿となるべき男性が嫁にしたい女性を夜中にこっそり盗みだし（恋愛関係にある男女で、親たちも暗黙に了解しているため、トラブルは起らない）、男性の家に遠れ帰る。翌朝になると、両隣りの家の人、男女を二人頼み、女性の家に結婚の申し入れのあいさつに差し向ける。その際、二つのハンボー（角つきの大きな手桶）にそれぞれ大豆と小餅を入れて男性が大帯で負い、女性が酒一升を携えて行った。これがいわば結納に当たる。この後、ミッカノイワイ（三日の祝い）と称して、婿が嫁の家に、嫁は婚家にそれぞれあいさつに出向き、相手側の両親と親子の杯を交わす。両家では婚礼の祝宴がはられ、親類・知己・近所の人々が集った。集落内の婚姻を良しとする風が強く、両方の家から招ばれることが多いので、両家の宴は同日に時間をずらして行われた。戦前までの習俗。

［ 高知大学人文学部 ］